

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL <http://jbwf.jp>

沙羅の樹

Saranoki

No.18

2023年春号

4月1日発行

令和5年 修正会を 3年ぶりに開催

at 浄土宗樞寺

一月三十日、三年ぶりに東京都台東区蔵前の浄土宗樞寺において修正会が開催されました。全日本仏教僧法団笹川悦導理事長御導師のもと法団上人方にご出仕いただき修正会法要が厳修されました。東伏見会長、花岡理事長をはじめとする約三十名の会員が本堂に参集し、般若心経を共に読誦することができ、すがすがしい気持ち味わいました。

法要後は笹川師より、今年の干支にちなんだ「ジャータカ物語」の兎のご話をいただきました。兎が自らの身を犠牲にして火に飛び込み布施を行ったというお話でした。天災、疫病、紛争など多くの

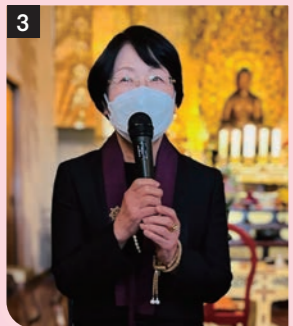
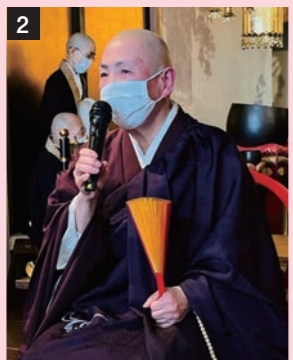
困難が続く今日、この兎の慈悲心にあやかり、正しい心で行動をおこし、良い方向に向かっていくようにと念じられました。

次に東伏見会長より新年のご挨拶があり現在のコロナ、気候変動などの問題の中でこそ、今年十月二十七日に行われる全日本仏教婦人連盟の七十回記念大会にむけて力を合わせましょうと呼びかけられました。

とても寒い日の続いた毎日でしたが、この日は雲一つない温かいお散歩日和となり、樞寺のすぐ近くの懇親会場イタリオンレストラン、シエロイリオに歩いて移動しました。会食中花岡理事長より今年の活動予定、七十回記念大会のウクライナの子供たちへの支援についての説明がありました。遠賀常務理事、本多理

事の進行で出席した会員は自己紹介や近況の報告などを行い、約二時間イタリア料理を味わいながら歓談しました。隅田川に面したガラス張りの会場からスカイツリーがすぐ目の前に眺められ、久方ぶりに和気あいあいの和やかな時を過ごしました。

十月二十七日(金)開催の七十回記念大会に向けての確かな一歩となりました。



1. 東京都台東区蔵前の浄土宗樞寺本堂
2. ご法話 (笹川理事長)
3. 新年のご挨拶 (東伏見会長)
4. 懇親会場



私たちの 活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

3月15日現在 (順不同・敬称略)

▼ご芳志をいただきました方々

念法真教 樞寺

▼社会福祉基金にご協力の方々

岸道子 末廣久美 梨本三千代

佐々木公子 大橋百合子

▼花の種運動にご協力の方々

東本願寺 本多端子 花岡眞理子

大橋百合子 日比野郁皓 岩脇孝子

佐々木公子 鈴木トヨ子 長尾節子

総持寺 末廣久美 河原時子

松井百合子

▼写経運動にご協力の方々

高橋節子 村上和之 末廣久美

海老名初江 長尾節子 佐々木公子

▼誌代にご協力の方

末廣久美

▼あおぞら奨学基金にご協力の方

花岡眞理子

今後の予定

☑ 「花まつり」
豊島区仏教会との共催

日時：4月3日(月)14時～15時30分

会場：雑司ヶ谷鬼子母神堂

☑ 第125回文化講座

日時：4月13日(木)14時～15時30分

講師：枝木美香氏 会場：天王寺

☑ 第11回総会

日時：6月14日(水)13時～14時30分

会場：浄土真宗本願寺派 本山東本願寺

☑ 第70回記念大会

日時：10月27日(金)11時～14時

会場：帝国ホテル東京本館3階「富士の間」

➡ 順次ご案内をいたします。

1月

17日 第183回宗教法人審議会(文化庁)

24日 第5回運営委員会(ZOOM会議)

25日 (公社)日本仏教保育協会新年懇親会

(東京プリンスホテル)

2月

1日 全日本仏教会新年懇親会(ホテルグランヴィア京都)

10日 常務理事会(ZOOM会議)

13日 (公財)国際仏教興隆協会第34回理事会

(オンライン会議)

20日 ウクライナ難民支援のため日本航空学園視察(山梨)

22日 第30回理事会(代々木会議室・ZOOM会議)

27日 WFBY村山博雅会長就任祝賀会(東京プリンスホテル)

28日 第184回宗教法人審議会(文化庁)

3月

1日～3日 花の種発送作業(本山東本願寺)

15日 (公財)全日本仏教会第38回理事会(オンライン会議)

20日 (公財)全日本仏教会第4回支援検討会議(オンライン会議)

27日 (公財)全日本仏教会第10回代議員会議(オンライン会議)

・第185回宗教法人審議会(文化庁)

Activity Report

写経運動

令和4年度皆様からお預かりいたしましたお写経は、(公財)国際仏教興隆協会様に委託し、インド日本寺本堂にて現地駐在のご住職様によって法要後に境内にあります宝篋印塔に納めていただきます。ありがとうございました。(国際仏教興隆協会様にお届けしてあります。)今年度も引き続き写経運動にご賛同くださいますようお願い申し上げます。



花の種運動

今年も30000袋の種をリーフレットと共に皆さまにお届けいたしました。各々お彼岸、花まつり行事に配布していただければ幸いです。どうぞよろしくようお願い申し上げます。早速にお礼のハガキや手紙・FAXが届いております。

あおぞら
奨学基金

令和4年度は2名の生徒さんが無事卒業されました。今年度(令和5年)より日本航空学園で勉強されているウクライナの高校生女子(能登校)と中学生女子(山梨校)を支援していきます。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

[発行人] 花岡眞理子 [編集人] 日比野郁皓 山口偉理子
[編集・デザイン] 合同会社まに



妙法院門跡 庫裡

第126回文化講座
京都
仏教セミナーは、本願寺執
行長安永雄彦様のご法話と
国宝の飛雲閣、書院等の拝
観、そして天台宗妙法院門
跡杉谷義純様下のご法話を
拝聴し、日頃非公開の妙法
院門跡の書院等を拝観後、
三十三間堂の参詣等盛りだ
くさんとなっております。

第126回文化講座

京都仏教 セミナー

6月2日(金)

妙法院門跡・三十三間堂

老若男女に親しまれている三十三間堂（正式には蓮華王院）は、妙法院門跡の境外仏堂です。先ず両寺が一つの寺院であることをご承知下さい。

東山七条の妙法院門跡の歴史は、後白河上皇が院の政庁である法住寺殿を造営したことに始まります。その地に観音信仰に熱心な後白河上皇の発願により、三十三間堂が平清盛の寄進により創建されました。

戦乱の歴史の中で、妙法院門跡と三十三間堂を復興したのは、豊臣秀吉でした。秀吉は亡き父母の菩提を弔うために、妙法院門跡で大規模な法事を行いました。現存する国宝の庫裡は、その時に僧の賄いを行った台所と伝えられています。

三十三間堂の堂内には、一千一体もの千手観音像が祀られています。更に、躍動的な風神・雷神像及び写実的な二十八部衆の神々が控えます。すべて国宝という圧巻なラインアップです。

三十三間堂は、江戸初期、平戸のイギリス商館長リチャード・コックス (Richard Cocks) が記した『イギリス商館長日記』で称賛されています。

シェークスピアとほぼ同時代のコックスが三十三間堂を訪れたのは、元和2年(1616年)11月のことでした。日記には、「この寺(三十三間堂)は私がかつて見た中で、最も称賛すべきものであり、著名な世界の七不思議のいずれにもひけを取らない」と記されています。

三十三間堂750年の歴史の中で、17世紀にヨーロッパと出会い称賛された歴史の一コマです。(丸山弘子)

浄土真宗本願寺派本山 本願寺(西本願寺)

京都堀川七条の大伽藍を京の人々は親しみを込めて「お西さん」と呼びます。

「なぜ本願寺は東西に分かれているの」という素朴な質問が、修学旅行の中学生からも聞こえてきます。歴史的に鑑みれば、1602年、教如上人は徳川家康から烏丸七条の寺地を寄進され東本願寺を分立しました。家康の宗教政策とも言われています。結果、本願寺は所在位置により、西本願寺(堀川七条)と東本願寺(烏丸七条)に分かれました。

国宝のオンパレードのお西さんは、1994年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。宗祖親鸞聖人の木造を安置する御影堂(国宝)、阿弥陀如来を安置する本堂の阿弥陀堂(国宝)、門主との対面に使われた大広間の対面所(国宝)、そして、唐門(国宝)は門跡寺院である本願寺の勅使門であり、その見事な彫刻を眺めて日が暮れるのも忘れてしまうことから、別名「日暮門」とも呼ばれています。更に、金閣、銀閣と共に京の「三閣」と称される飛雲閣(国宝)は、優美な名建築です。

国際的な学術研究として、大谷光瑞西本願寺第22世門主は、探検家でもあり、明治35年(1902年)から3回に渡り、仏教研究の新たな発見を目的に、西域へ「大谷探検隊」を派遣しました。仏教文化が栄えたホータン遺跡や亀茲遺跡(今の中国新疆ウイグル自治区)などを調査し、經典の道でもあったシルクロード研究の上で貴重な業績を挙げました。(丸山弘子)



飛雲閣

REPORT! 03

静岡県仏教婦人会 フードバンク編

静岡県仏教婦人会は、フードバンクへの協力を活動の柱の一つにしています。それをきっかけに、寺院と地域の団体が連携して困窮支援を行っている地区もあるそうです。今回は連携の発端となったフードドライブについて、経緯からご紹介いたします。

静岡県仏教婦人会(県仏婦)が『フードバンクふじのくに』(以下『ふじのくに』)と関わるきっかけは、広報担当時の村松現会長による、本部役員会での提言でした。「フードバンクという素晴らしい活動がありますよ」と。

最初の機会は平成28年6月、『ふじのくに』構成団体の一つである『NPO法人POPOLO』の創設者で、『ふじのくに』事務局次長の鈴木和樹氏を招いての理事会でした。氏の

開口間もなく、私たちに衝撃が走りました。『飽食の時代に貧困!』『子どもの7人に1人が食べられない!』

この日の衝撃はその後、『ふじのくに』の理事長や事務局長の講演会に、更には県仏婦全体の、或いは各地区でのフードドライブ(食品回収活動)やお米1合支援に繋がっていったのです。

先駆の一つをなしたのが沼津地区でした。

初めて「フードバンク」に触れた理事会帰りの電車の中、当時県仏婦の沼津地区常任理事だった、勸山現副会長や理事さん方は「今時貧困って、許せないよね!」「食品集めて、私たちでもできるんじゃない?」「やろう!」

とは言え、シニアの多い県仏婦役員のこと、やはり実働隊が必要です。

当時の勸山常任理事は自坊(真楽寺)に戻って早々、副住職の法紹師に打診。快諾した法紹師は即座に『沼津市青年仏教



会(青仏)』に諮り、1ヶ月半余で『ふじのくに』の8月の定期フードドライブに合わせ、寺院を対象に自主フードドライブを開催しました。集まった食品は五百余キロ!

その陰には驚異的な手法がありました。回収拠点は、県仏婦理事の各寺院と最終集積所である真楽寺。しかし持参が無理な寺院には「たとえ少しでも、お電話下されば青仏がいつでも頂きに上がります」と。

以降も半年ごとに実施。回収量はやがて七百キロ、八百キロと増えていったのでした。(結城きよみ)

次号「全佛婦137号」にてさらに詳しくお話を聞いていきます。お楽しみに!



「ウクライナ支援」について

理事長 花岡真理子

三団体(全国青少年教化協議会・日本仏教教育協会・全日本仏教婦人連盟)では、日本に避難している子ども達に直接支援したいという事で、「ウクライナ子ども避難民支援」を昨年、能登にあります(学法)日本航空学園高等学校へ訪問、ウクライナの高校生に支援金を差し上げてきました。(全佛婦136号掲載)

今回は先日(2月20日)山梨県にあります(学法)日本航空学園日本航空中学校へ行ってきました。中学校では理事長梅澤茂雄様はじめ校長先生、担当の先生達のお話を伺う事が出来ました。ウクライナの子ども達4名にお会いしてきました。

この中学生4名(女の子2名・兄弟)の子ども達はまだまだ幼さもあり、とても寂しいのではと思いましたが、熱心に日本語を勉強しているようで、日本に早くなじもうとしている様子でした。全日仏婦を代表いたしまして、1名に支援金(10万円)をお渡し致しました。

まだ幼いので、学校の方でお預かりする事になりました。「ありがとうございます」と、英語ができる女の子が答えてくれました。当連盟は、高校生1名(女の子)、中学生1名(女の子)を3年の期間、あおぞら奨学基金での支援をしていきます。

